

犬の十戒

今、「犬の十戒」という作者不詳の詩が、犬の愛好家の中で爆発的に広がっています。今犬を飼っている人も、これから犬を飼おうとしている人も、ぜひこれだけは知っていてほしいと犬の立場から語った詩です。

奇妙しくもの先週の土曜日から「犬の十戒」をアレンジした「犬と私の10の約束」という映画のロード・ショーが始まり全国的に話題になっているようです。今改めてこの詩を読み返し、15歳を目前にしてこの世を去った愛犬アレックスのことを思い出しています。

アレックスは正式の名前をアレクサンドラと言う、30キロの雌のアラスカン・マラミュートです。当時ホノルルに住んでいた上の娘が知り合いから分けてもらったのを私が日本に連れてきました。1995年の1月10日に同じ飛行機に載せて連れてきましたが、関空の検疫所の2週間の留置期間中に阪神大震災が起こったので、震災直後の大渋滞の中を長時間かけて関空まで引き取りに行ったという忘れられない思い出があります。

私は犬は家族の一員だと思っていますので、室内で飼っていましたが、死ぬ直前まで用便は必ず知らせて、粗相をしたことは一度もないいい子でした。日中はリビングのソファに、家内とアレックスと猫2匹が、それぞれ縄張りを確保して、「コックリ、コックリ」と午睡をむさぼっていました。

毎日1時間の散歩と食事は家内の日課になっているにもかかわらず、アレックスは私を完全にボスと信じきっているらしく、どんな命令にも絶対服従します。

外出時には必ず付いてこようとするので、「お父さんはお仕事」というとすすり泣き返します。どんなに遅く帰っても必ず玄関まで迎えに出てくる忠実さは家内以上でした。夜は私のダブル・ベッドの半分を自分の寝場所と決めており、私がベッドに入ると、自分の身をずらして、私の寝場所を譲るといった細かい配慮まで示します。

もっとも13歳ころからは大型犬特有の関節炎のせいで二階に上がる階段が苦痛になり、夜もリビングのソファで寝るようになりました。

ロータリーの所用で家内と一緒に旅行に行くときには、仕方なくペット・ハウスに預けることにしていましたが、これと、動物病院に行くのが何よりも嫌いで、脚を踏ん張って車から降りるのを拒否し続けました。

ペット・ハウスの檻から我が家に逃げ帰ろうとして、分厚い扉を一晩中噛み続けて、ステンレスの板をひんまげた代わりに前歯を折ったこともありました。避妊手術のために入院させたときにも脱走を試みて、病院の檻の扉、入院室と診察室の間の扉をことごとく壊して、玄関の扉に体当たりしているところで見つかってしまったこともありました。その代わり迎えに行ったときの喜びようは只事ではありませんでした。

自分は喋れないくせに、こちらの話していることはほとんど理解できているらしく、特に自分に関係する話題には身を乗り出して聞き入っているようでした。

昨年正月過ぎ、私が腹部大動脈解離のため人工血管置換の大手術を終えて退院した頃から、アレックスの関節炎がひどくなってほとんど横になって過ごすようになりました。アレックスを病院に連れて行くのも大仕事でした。私も病後のことなので抱きかかえて車の後部座席に運ぶのもままならず、ついにワン・ボックス・カーに買い換えるはめになりました。

3月頃から、自分ひとりで立ち上がることができなくなりました。用便の時には知らせるので、タオルを脚の付け根に巻いて引き上げてやると、おぼつかない足取りで歩いて庭の片隅で済ませる日が続きました。

5月20日過ぎからほとんど食事をとらなくなったので、家で点滴を続けました。以前から甘いものが大好きだったので、クリーム・パンをやると一口二口食べたのが最後の食事になりました。痛がって泣くので3時間おきにモルヒネを注射してやりましたが、5月31日に息を引き取りまし

た。あまり苦しまなかったと思います。

最後まで面倒を見てやれたのがせめてもの慰めだったと思っています。

後2週間で15歳を迎える初夏の夕刻でした。

「犬の十戒」

- 1 私の一生は10～15年くらいしかありません。
ほんのわずかな時間でもあなたと離れていることは辛いのです。
私のことを飼う前にどうかそのことを考えてください。
- 2 私が「あなたが私に望んでいること」を理解できるようになるまで時間が必要です。
- 3 私を信頼して下さい。それだけで私は幸せです。
- 4 私を長時間叱ったり、罰として閉じ込めたりしないで下さい。
あなたには仕事や楽しみがありますし、友達だっているでしょう。
でも……私にはあなただけしかいないのです。
- 5 時には私に話しかけて下さい。
たとえあなたの言葉そのものはわからなくても、
私に話しかけているあなたの声で理解しています。
- 6 あなたが私のことをどんな風に扱っているのか気づいて下さい。
私はそのことを決して忘れません。
- 7 私を叩く前に思い出して下さい。
私にはあなたの手の骨を簡単に噛み砕くことができる歯があるけれど、
私はあなたを噛まないようにしているということ。
- 8 私のことを言うことをきかない、頑固だ、怠け者だとしかる前に
私がそうなる原因が何かないかとあなた自身考えてみて下さい。
適切な食餌をあげなかったのでは？
日中太陽が照りつけている外に長時間放置していたのかも？
心臓が年をとるにつれて弱ってはいないだろうか？などと
- 9 私が年をとってもどうか世話をして下さい。
あなたも同じように年をとるのです。
- 10 最期の旅立ちの時には、そばにいて私を見送ってください。
「見ているのがつらいから」とか
「私のいないところで逝かせてあげて」なんて言わないでほしいのです。
あなたがそばにいてくれるだけで、私にはどんなことでも安らかに受け入れられます。
そして・・・どうか忘れないで下さい。
私があなただけを愛していることを。